令和7年第8回教育委員会議事録

令和7年4月23日（水）

杉並区教育委員会

教育委員会議事録

日 時 令和7年4月23日(水)午後2時00分～午後3時50分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 渋谷 正宏 委員 對馬 初音

委員 伊井 希志子 委員 前田 小百合

委員 大川 康德

出席説明員 事務局次長 井上 純良 学校整備・支援担当部長 高山 靖

生涯学習担当部長 武井 浩司 庶務課長 近藤 高成

学校ICT担当課長 松下 征弘 教育人事・指導課長 松尾 了

教育人事・指導課
統括指導主事 柿添 剛広 学務課長 森 令子

特別支援教育課長
就学前教育
支援センター所長 有坂 直子 学校整備課長 安川 卓弘

学校整備担当課長 花岡 純子 学校支援課長 中曾根 聡

生涯学習推進課長 牛山 進一郎 済美教育センター所長 古林 香苗

済美教育センター
統括指導主事 清水 里恵 済美教育センター
統括指導主事 齊藤 敦

済美教育センター
教育相談担当課長 岡部 洋右 中央図書館長 出保 裕次

済美教育センター
指導主事 梅林 伸幸

事務局職員 庶務係長 倉岡 直哉 法規担当係長 荒川 正良

担当書記 松尾 菜美子

傍聴者 1名

会議に付した事件

議案

議案第 42 号 令和 7 年度における「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」等の実施について

報告事項

- (1) 杉並区いじめ防止授業の実施について
- (2) 学校運営協議会委員の任命について
- (3) 杉並区教育委員会共催・後援名義使用承認について
- (4) 令和 6 年度「杉並区中学生小笠原自然体験交流事業」の実施報告について

令和 7 年度における教育委員会事務局の主要課題について

目次

議案

議案第 42 号 令和 7 年度における「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」等の実施について・・・・・・・・・・・・・・・・	4
---	---

報告事項

(1) 杉並区いじめ防止授業の実施について・・・・・・・・	6
(2) 学校運営協議会委員の任命について・・・・・・・・	9
(3) 杉並区教育委員会共催・後援名義使用承認について・・・・	10
(4) 令和 6 年度「杉並区中学生小笠原自然体験交流事業」 の実施報告について・・・・・・・・	11
令和 7 年度における教育委員会事務局の主要課題について・・・・	13

教育長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから令和7年第8回杉並区教育委員会定例会を開催いたします。

それでは、本日の会議について事務局より説明をお願いいたします。

庶務課長 本日の議事録の署名委員につきましては、教育長より事前に前田委員との指名がございましたので、よろしくをお願いいたします。

本日の議事日程でございますが、議案1件、報告事項4件のほか、前回の定例会でご説明させていただいた「令和7年度における教育委員会事務局の主要課題」について質疑を予定しております。以上でございます。

教育長 それでは、本日の議事に入ります。事務局より説明をお願いいたします。

庶務課長 それでは、日程第1、議案第42号「令和7年度における『教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価』等の実施について」を上程します。私からご説明をさせていただきます。

議案第42号「令和7年度における『教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価』等の実施について」でございますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づきまして、令和6年度分の教育に関する事務の管理及び執行状況について、点検及び評価等を行うものでございます。

資料の1「目的等」をご覧くださいければと思います。こちらにございますとおり点検・評価は、教育ビジョン2022の取組を具体化した杉並区教育ビジョン2022推進計画について、その取組状況を点検・評価し、広く区民等に公表するとともに、効果的な教育行政の推進に資することを目的としております。また、昨年度杉並区教育委員会事務局等における不適切事案等の要因分析及び再発防止対策検討委員会にて検討を重ねた再発防止対策の取組につきまして、現時点における中間評価を併せて実施いたします。

なお、点検・評価報告書は、法令等により区議会に提出いたします。

次に、2の「実施方法」でございます。昨年度との違いでございますが、(2)に「再発防止対策に係る中間評価」を追加してございます。現時点の取組状況の確認、それから課題整理を行いまして、必要に応じ今後再発防止対策の検討を行ってまいりたいと存じます。

最後に、3の「スケジュール(予定)」でございますが、各課におい

て点検・評価案及び再発防止に係る中間評価案を5月から7月にかけて作成いたしました。その後、8月頃に学識経験者と各課との意見交換等を行った上で、学識経験者より点検・評価と中間評価に対する評価を頂きたいと存じます。

最終的な報告書案につきましては、10月の教育委員会に付議申し上げまして決定した報告書を区議会文教委員会に報告し、教育委員会のホームページ等により広く公表してまいります。

今回は例年の点検・評価に加えまして、教育委員会事務局等の様々な不適切事案に対する再発防止対策の取組についても学識経験者の方からご意見をお聞きしながら、対策の内容の修正、追加等を進めてまいりたいと考えてございます。

私からは以上でございます。なお、議案の朗読は省略させていただきます。

ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、お願いをいたします。

前田委員 ご説明ありがとうございます。11月に文教委員会に報告して、公表となると思うのですが、この点検・評価はそれを経て、次の何の計画や行動に反映されるものなのか、そのプロセスを教えてください。

庶務課長 例えば次年度の予算、そこへの反映であるとか、それから中間評価においては、その再発防止策が有用に機能しているか、再度事務局の方で考えながら、確認してまいりたいと考えているところでございます。

前田委員 ありがとうございます。では、ものによっては、例えば何か新たな取組が必要である場合には予算を要求したり、計画がなされるということですね。分かりました。

学識経験者の方のご意見を頂いたり、評価をつくったり、すごく工数がかかる大変な作業だと思いますので、是非生かしていただいて、次のよりよい教育行政につなげていけるように、そういう観点で、公表したら終わりではなくて、是非これを次に生かしていただけるような取組にしていただければと思っております。よろしく申し上げます。

庶務課長 ご指摘ありがとうございます。たくさんの方の工程を踏んで、やって終わったではなくて、それが次に生きるように工夫してまいりたい

と考えております。

伊井委員 例年点検・評価は年1回だと思っておりますが、中間ということなので、2回と考えてよろしいのでしょうか。

庶務課長 いわゆる地教行法の26条に基づく点検・評価というのは、前年度において行われてきた施策について、翌年度に評価を行うというものでございます。ただ、不適切事案等に関する対応については、既に評価をし終わった後でございますけれども、取組は続いてございます。そういった中で令和6年11月から現時点までの部分について評価を行って、年度の後半に生かしていくというところで対応してまいりたいと考えております。

伊井委員 よく分かりました。今、前田委員からも出ましたけれども、是非また次に生かしていただけるよう、よろしく願いいたします。

庶務課長 ほかはよろしいでしょうか。

それでは、教育長、議案の採決をお願いいたします。

教育長 それでは、採決を行います。議案第42号につきましては、原案のとおり可決して異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

教育長 異議がございませんので、議案第42号につきましては、原案のとおり可決といたします。

続きまして、報告事項の聴取を行います。事務局より説明をお願いいたします。

庶務課長 それでは、報告事項1番、「杉並区いじめ防止授業の実施」につきまして、教育人事・指導課、柿添統括指導主事から説明をいたします。

教育人事・指導課統括指導主事 それでは、私より「杉並区いじめ防止授業の実施について」、ご報告をさせていただきます。

杉並区では、児童・生徒一人ひとりがいじめ問題に対して主体的に関われるようにすることを目的として、杉並区教育委員会と第一東京弁護士会とのいじめ防止授業に関する連携協定を結びました。本授業の趣旨でございますが、いじめ防止対策推進法に示されている、いじめは心理的、物理的な影響を与える行為であり、その行為の相手が身心の苦痛を感じているものはいじめとなること、そして自分ではいじめたと思っていなくても、相手がいじめたと感じられる行為はいじめであること、こ

ういったことを児童・生徒が確実に理解することを目的としております。

授業の内容ですが、実施の対象は小学校第4学年及び中学校第1学年の全児童・生徒となります。

実施方法につきましては、小学校は学級単位、中学校は学年単位での講義形式を考えております。

授業実施期間につきましては、令和7年度中に各校1回ずつを予定しております。

その他ですが、弁護士による講義形式の授業の後に、学級担任等による振り返り、あるいは自分ができることを考えるなど、フォローアップの授業を設定することを予定しております。

私からは以上でございます。

庶務課長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

それでは、對馬委員、お願いします。

對馬委員 ありがとうございます。私、去年の2月ぐらいかな、モデル校の小学校4年生の弁護士さんの授業を拝見させていただきました。子どもたちも一生懸命聞いていました。4年生だったので、ちょっと難しいかなという部分もあったりもしましたので、この担任の先生がやるフォローの授業というのがとても大事になってくるのかなということ。弁護士の先生方も回数を重ねれば、先生方の方もブラッシュアップされるのではないかと思いますけれども、やはり弁護士さんとしてのプロであって、教育の経験があまりない方もいらっしゃるかもしれませんので、是非できるだけ、お忙しいとは思いますが、事前の打合せであったり、授業のフォローであったり、そういったところを先生方にも一生懸命やっていたらいいなと思っていただければいいので、いい機会にさせていただけるといいなと思っております。よろしくお願いいたします。

教育人事・指導課統括指導主事 事前の打合せ、続々始まっているのですけれども、今、考えているのは指導主事、あるいは私も授業を拝見して、2回目の授業も拝見して、よい事例があれば積極的に横に展開していこうというのは相談しているところですので、なるべく早い段階でそういった事例を集めて展開できればと考えております。ありがとうございます。

庶務課長 では、大川委員、お願いします。

大川委員 今回の對馬委員の意見と同じなのですけれども、まず私、弁護士として、教育は本当に素人です。教え方というのはみんな全く知らないですし、弁護士会を通じて派遣されて、数人、数十人の弁護士が来ると思いますけど、ものすごくむらもあると思いますから、是非ちゅうちょせず積極的にこうしてほしいというのをどんどん言ってほしいです。私たちは裁判所で法廷に立つのはプロでも、教壇に立つのは本当に素人ですから、そのようにおっしゃっていただけたほうがありがたいです。よろしくをお願いします。

教育人事・指導課統括指導主事 ありがとうございます。是非そのあたりも指導主事より各学校に知らせていきたいと思います。ありがとうございます。

庶務課長 ほか、いかがでしょう。

前田委員 私も今、お二方が言われたのと同じところなのですけれども、多分分かりやすく伝えるということが、まずすごく難しい話題なのだろうなと思います。法律ではどういうことを定めているかというところをお話しいただくので弁護士さんに来ていただくのですが、分かりやすく伝えるのがまず難しいですし、本当に伝わったかというところは是非これを機に、伝えるだけではなくて、子どもたちが何を分かったのかというところも含めて、彼らの言葉で書いてもらうというのを是非やってほしいなと思います。事後の授業は先生がやられるので、そんなに心配というか差し出がましいことは言わないのですが、是非クラスで日々起きていることと関連づけてそういう話ができるとういなと思います。あの時のこういうことが問題だったのだなとか、気持ちだけの話ではなくて、法律的にいうとこういうことで、法律でこういうことが定められている、それが何のためなのかという、ここの具体と抽象を行ったり来たりするような、そういう学びに展開できるとすごくいいのではないかなということを感じましたので、これこそ各クラスでやることの意義だなと思っています。

もう一つは、是非この取組を教育委員会でも報告してほしいなと思っています。子どもたちが何をよく分かったとか、どんな声が上がったのかとか、今回新しい取組だと思っていますので、その進捗はすごく気になっております。子どもの人権の話も今、区では出ていますけれども、子どもたちはどれぐらい人権とかそういうことに触れていくかというのは、

とても大事な取組だと思うので、是非最後だけではなくて、中間も含めてどんなことができたのかというのを教えていただけるとうれしいなと思っております。

教育人事・指導課統括指導主事 具体と抽象というところでは、先般学校に通知を出しているのですけれども、本当に初めなのでざっくりと事例というか流れを示しています。年次の振り返りをして、その中で、各学級で起こっていることとか、ふだん気になることがあるか、学校でどんなことが起こっているか、そして最後は自分ないしクラスでできることを決めていこうというように、ざっくりと示しているのですが、先ほど申し上げたとおり授業観察する中で、具体の事例があれば積極的に横に展開していこうと考えています。

2点目の報告につきましては、ちょっと時期等検討して、ここで中間報告も必ずできるように準備していきたいと思います。ありがとうございます。

庶務課長 ほか、よろしいでしょうか。それでは、以上で報告事項1番についての質疑を終わらせていただきます。

続きまして、報告事項2番「学校運営協議会委員の任命」につきまして、学校支援課長からご説明いたします。

学校支援課長 私からは、杉並区学校運営協議会規則の規定に基づく、学校運営協議会委員の任命について、ご報告いたします。

今回任命されるのは、小学校8校、中学校7校、計16名となっております。任期は令和7年5月1日から令和9年4月30日までの2年間となります。

私からの報告は以上です。

庶務課長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

伊井委員 ありがとうございます。1期目の方が多かったり、区分も学識経験者から校長推薦という形で、公募という形の方ではないのですが、これはPTAの方だったり、そういった枠のことでしょうか、確認させていただけたらありがたいです。

学校支援課長 今回のこのタイミングは、新しくPTAの役員さんが決まったりする中で、現役保護者を必ず1名以上入れるというのが法律上はこの協議会の条件になっております。そういう方は校長推薦が基本的に、

その枠組に入っておりますので、そういった状況からの結果でございます。

伊井委員 ありがとうございます。こういう方たちが、また次の世代につながっていくといいのかなと思います。

1点、全然関係のないことなのですけれども、ここの会議録があるではないですか、CSの。それは誰がつくるかという規定はないのですか。

学校支援課長 会議録は、基本委員さんの中で分担してつくってほしいということをお願いしているのですが、まだまだ学校によっては副校長先生がつくっていたりというところもございます。

伊井委員 分かりました。それぞれのCSで多少の違いはあるのですけれども、いい形で次の会に生きていけばいいと思うのです。学校支援課さんの方でも会議録をご覧になるタイミングというのはあるのですか。

学校支援課長 一つひとつ確認することはあまりないのですが、何か課題があった時に改めて確認することはございます。

伊井委員 学校ごと、要所要所で押さえていただけるといいなと思います。よろしく願いいたします。

庶務課長 ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で報告事項2番についての質疑を終わらせていただきます。

続きまして、報告事項3番「杉並区教育委員会共催・後援名義使用承認」につきまして、生涯学習推進課長からご説明いたします。

生涯学習推進課長 それでは、令和7年3月分の杉並区教育委員会共済・後援名義使用承認につきまして、ご報告申し上げます。

3月分の合計でございますが、21件で内訳は定例18件、新規3件となっております。共催、後援の別でございますが、共催5件、後援16件となっております。

新規の3件でございますが、1件目は、資料4ページをご覧ください。庶務課承認分で、名義形態は後援、団体名は音楽の花プロジェクト、事業名は「第3回能登半島地震復興支援チャリティーコンサート」でございます。

2件目は、同じく資料4ページをご覧ください。こちらも庶務課承認分でございますが、名義形態は後援、団体名は一般社団法人秋田雨雀・土方与志記念青年劇場、事業名は「『あの夏の絵』公演」でございます。

3件目は、同じく4ページをご覧ください。こちらも庶務課承認分で、名義形態は後援、団体名はNPO法人エンジョイキッズ、事業名は「Minecraftで1日eスポーツ体験教室」でございます。

私からは以上でございます。

庶務課長 ただいまの説明につきまして、何か質問等ございますでしょうか。

それでは、ないようでございますので、報告事項3番につきましての質疑は終わらせていただきます。

続きまして、報告事項4番、「令和6年度『杉並区中学生小笠原自然体験交流事業』の実施報告」につきまして、済美教育センター梅林指導主事からご説明いたします。

済美教育センター指導主事 済美教育センター指導主事です。私からは、令和6年度に実施いたしました「杉並区中学生小笠原自然体験交流事業」についてご報告いたします。

本事業は、世界自然遺産である小笠原の貴重な自然体験と、その自然に育まれた文化を通して、子どもたちの豊かな人間性を育むこと、また、自然体験を通じて参加した生徒たちが各学校、地域における環境保全活動の推進役となり、世界的な視野を持って持続可能な社会について考えることができる人材を育成することを目的としております。

期間は、令和7年3月19日水曜日から、3月24日月曜日までの5泊6日間で実施いたしました。ここには往復の移動船中泊2日を含みます。

派遣者は、杉並区内在住の中学生22名です。44名の応募があり、まず応募作文による書類審査を行い、その後、2次審査として個人面接及びグループ面接を実施いたしました。引率者として、記載の7名が同行いたしました。

主な内容は、事前学習会を3回実施し、小笠原についての興味・関心を高め、知識・理解を深めました。現地においては、星空観察、シュノーケリング、ホエールウォッチング、父島ネイチャーガイドといった貴重な自然体験を行いました。

また、現地の方々との交流として、小笠原ならではの南洋踊りやフラダンスを体験し、ビーチクリーン講習にも参加いたしました。

生徒たちが設定した課題としては、海のプラスチックごみ問題、観光

業と環境保護の両立、生態系保護のための取組、小笠原固有種の保全活動、外来種による影響と対策などがあります。

今後の取組といたしましては、事後学習会を令和7年4月から7月にかけて3回実施し、生徒たちが各自設定した課題に対する学習内容や成果についてまとめを行います。

令和7年7月12日土曜日に成果報告会を開催し、生徒たちがそれぞれの学習内容や成果を発表する機会を設け、本事業を通して得られた学びを生かし、その成果を還元していきます。

教育委員の皆様もお時間がありましたら、是非ご出席いただけたらと思います。

以上で報告を終わります。

庶務課長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いをいたします。

伊井委員 同行させていただいた者として、一言ご挨拶というか、ご報告を申し上げます。

今、梅林指導主事の方から詳細報告いただきましたので、本当にこちらに書いてあるとおりののですけれども、行きは雪の中だったのです、出発が。もう本当に、珍しい風景で、現地に来ましたら晴れていたのですが、船は結揺れたので、子どもたちは結構皆さんきつかったと思うのですね。20分遅れるというのは結構珍しいとネイチャーガイドの方はおっしゃっていましたが、取り戻せなかったのだねという言い方をされていたので、多少の遅れとかはあっても、本来途中でいろいろ調整できるものが、それもできなくて、20分遅れになったということはなかなか大変だったのかなと思いました。

先日、ちょっと用事があったので、竹芝の方に行ったのですけれども、竹芝から全く船が出ないという日もあるとのことで、本当に無事に行って無事に帰ってこられた、現地でもいろいろな体験を全て実施することができたというのは本当にありがたく、幸運なことであつたし、子どもたちも全員参加できたのでよかったなと思っております。

子どもたちはプログラムの中で、挨拶だったり、それから司会であったり、すごく頑張って取り組んでいましたし、何より男子も女子も本当に和気あいあいと仲よく、絆を築いていて、誰一人取り残さないように、調整しながら、気を遣いながらいろいろな決めごとを進めていくところ

は、本当にこちらが学ばされました。

1点、お一人の方が親御さんの転勤で、この間の事後学習にももういらっしゃることはできなかつたんですね。これだけ本当に絆を深めて、仲を深めて自分たちで一緒に進めてきたので、ご家庭のご事情や考え方もあると思いますが、何らかの形で締めくくりのところでご一緒できて、そして行ってきたご報告にできると、例えばオンラインとかいろいろな形があると思いますが、成果報告書の書面であつたり、何らかの形で一緒に発表できるといいのかなと、またそれが一人ひとりの次につながっていくのかなと思いますので、是非ご検討いただけたらありがたいです。ご苦勞をおかけしますが、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

済美教育センター統括指導主事（清水）　今回、伊井委員に行っていたきまして、本当にありがとうございました。全員無事に行つて帰つてこられたことは本当にありがたいなと私も思つております。

目的にもあるように、自然体験だけではなくて、おっしゃってくださったように子どもたちの豊かな人間性、人間関係を育むことができたと感じております。

また、転校して都外に出ってしまった生徒につきましては、今のところ事後学習も可能ならオンラインでということでも声かけをしております。また、最後まとめの冊子をつくりますので、そこも今、おっしゃってくださったように、全員分掲載できるような形で進めていきたいと考えております。

伊井委員　ありがとうございます。大変だと思つますが、どうぞよろしく願いいたします。

庶務課長　ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で報告事項4番につきまして、質疑を終わらせていただきます。報告事項は以上でございます。

教育長　それでは、続きまして、「令和7年度における教育委員会事務局の主要課題について」です。前回の定例会で事務局より内容について説明をしていただいておりますので、本日は質疑からとさせていただきます。

では、進め方について事務局より説明をお願いいたします。

庶務課長　それでは、令和7年度における教育委員会事務局の主要課題

につきまして、ご意見、ご質問等いただければと思います。かなりボリュームがございまして、内容が多岐にわたることから、まずは資料の前半部分、資料ページで申し上げますと1ページの全体的課題、及び2ページから8ページ目までの庶務課、学校ICT担当、教育人事・指導課、学務課、特別支援教育課、学校整備課の主要課題について、前半で質疑等させていただき、その後、後半部分の質疑という形で進めさせていただければと思います。

それでは、ただいま申し上げた前半部分等につきまして、まずは全体的なところで何かご意見、ご質問等ございましたらよろしく願いいたします。

前田委員 私の方から、細かいところはまた皆様からも、私も含めていろいろあると思うのですが、ちょっとこの資料を見せていただいた時に、各課の目的といいますか、各課でどういうことをやろうと思っているのかというのが、私たち、すみません、私なのかもしれないのですが、把握ができていないなと思ったりもしてしまっていて、これはこれで進めつつ、もう少し各課の方々がどういうことをやろうとされているのかというのを知りたいなと思いました。

それを認識した上で、この各項目がその方向性の1個ブレイクダウンしたものになっているのかなと、そこら辺が見えてくるとそれぞれの取組がよさそうだなとか、こうしたほうがいいのではないかなというお話もできるのかなと思ったので、それぞれ各課でどういうことをやろうとしているのか、目指す方向性について教えていただきたいというのが一つ。

この後どのように進めるのかもちょっとご相談だと思っているのですが、一旦私の意見としてあります。

もう一つは、先ほどお伺いしたら、この資料はこの後、取組の種類によって、例えば区長部局等含めてやっていくことであれば、そちらの計画に入っていたり、教育委員会でやるものであれば、部課長会でこれがそのまま進捗が確認されていくと聞いているのですけれども、資料の記載の中で、取組を進めていくとか、準備していくとか、そういう書き方になっているのがちょっと気になってしまっていて、例えば1年後だと長過ぎるので、4、6月のクォーターでこういうことをやるとか、こういう成果を出すとか、例えば計画を立てるでもいいですけど、各時期にど

ういうことができていると進んでいると言えるのかというのがもう少し分かるようにしていかないと、これだとちょっと進捗が分かりにくいなと思ったので、そういう設定ができると分かりやすいなというのが私としての意見です。

庶務課長 それでは、総括的な質問というところで、私の方でお答えをさせていただきます。

まず、各課の目的というところがございます。これはそれぞれの分掌事務につきまして、杉並区教育委員会事務局処務規則、それから教育機関の処務規則といったところで、その課が何をやっているのかというところについては定めてございます。その上で、例えば各課別に施策の体系による事務事業評価であるとか、そういったもので取組についてはご紹介申し上げているというような現状がございます。

それから教育委員会事務局全体の目的、目指す方向性、このあたりにつきましては「教育ビジョン 2022 みんなのしあわせを創る杉並の教育」で定めてございまして、具体的な取組については教育ビジョン 2022 推進計画、こちらで事業ごとに定めて各課で立案した6年度から8年度までの取組計画について共有しながら実現に向け取り組んでおります。

それから先ほど今後の進捗管理についてのご質問をいただきました。今般、各課で挙げた課題に関しましては、一部は区の中央進行管理事業としてそれぞれ進行の管理を行ってまいります。前田委員の方からお話があった、いつ頃、どんなことを、何をやるのという計画を立てて、それについて何をやったのという評価を行ってまいります。

また、中央進行管理事業に選ばれなかった他の課題につきましても、教育委員会事務局の中で進行管理を進めていくということを計画してございまして、同じように、それぞれの時期にこういったことをという具体的な設定をこれから行ってまいります。月に1回ぐらい教育委員会事務局の部課長会の中でそれぞれの進捗を管理しつつ、適宜教育委員会の方にも情報の提供をさせていただきたいと考えておるところでございます。

前田委員 ありがとうございます。今、伺ったところでいうと、では今、各課のいろいろな課題がありますがけれども、それぞれがどう進んでいるかというのは明確に分かるということで、そこはこの資料を基に私たち

は適宜どうなっているのかということを確認できるという理解でよろしいですか。

庶務課長 そうですね、各課では認識をしております。それでお気になる点等ございましたら、事務局にお問い合わせを頂ければ、現状こうなっていますというご説明は申し上げられるかと思えます。

前田委員 分かりました。であれば、また適宜確認をさせていただきたいなと思っております。ありがとうございます。

事務局次長 ちょっと補足をよろしいですか。これにつきましては、基本的には年度末にどういう到達点という目標を決めまして、それに向けてどういう取組をするかというものは、またこれとは別の表を使ってやっています。その中で毎月、4月は何をやる、実際にその4月はどうかというところで、その内容を先ほど言った部課長会で確認するといったところになります。

前田委員 ありがとうございます。どこに行こうとしているのかがちょっと見えなかったのも、そこも是非、ご負担のない限りだと思いますが、共有いただけると進みが分かって安心しますので、よろしく願いいたします。

事務局次長 なおかつ、最後に年度末になった時に、できたことできなかったことが当然ありますので、では、できなかったところについては今後どうするのかというところまでやる予定です。

前田委員 私の感覚からすると、計画は計画で、変わってもいいと思っていまして、例えば1期終わってできなかったら、ちょっと次の期の現状下げるしかないこともあると思いますし、これを達成するために何でもして質が下がるみたいなことは本末転倒だと思うので、皆さんでやりやすいというか、もちろん前に進んでいくのは大事なのですけれども、うまく計画を見直しながら、是非進めていただければなと思っております。

庶務課長 ほかは、全体的なこととしてはよろしいでしょうか。

それでは、8ページまでの個別課題につきまして、ご質問等よろしく願いいたします。

では、對馬委員、お願いします。

對馬委員 3点まとめてご質問してよろしいですか。

庶務課長 はい。

對馬委員 まず前の方からいくと、3 ページ目ですか、庶務課の ICT 担当の 4 番目、生成 AI の学校教育での利活用に関して、現状どの程度利活用していて、このガイドラインを策定した後、どのように教育現場で使われることを想定しているのかとか、見通しを持っているのかということをお教えいただきたいということが 1 点。

それから、5 ページ目の学務課の二つ目のところですか、小学校 6 年生の移動教室の件です。移動教室先、現在、行っている白樺湖のところ、私とか伊井さんとか前に拝見させてもらったことがあるのですが、ちょっといろいろ課題もあると伺っています。最後に「提案内容を慎重に見極めていく」とあるのですが、どのように見極めていくのかとか、あと 5 年生の移動教室に関してここは書かれていないのですが、そちらはどうなっているのかということですか。

それから 8 ページ目の一番下、プールのあり方に関して、昨今の夏も非常に暑くて、暑過ぎてプールに入れないということもあるようですし、校舎改築の段階でやっぱりプールという財産はなかなか維持していくのも大変だと伺っているのですが、現在、これだけ暑くなってからどのぐらいプールを使った授業が実施できているのか、あるいはできていないのか。それからプールというのは水泳授業のほかにも、例えば防火用の貯水池としての機能も求められているのか、プールが学校になくても困るのか、今、どのような声が上がっているのかということをお伺いできればと思います。

以上 3 点です。

庶務課長 それでは、3 点順繰りにお答えをさせていただきたいと思えます。

学校 ICT 担当課長 生成 AI について、区ではほぼ使われていないというのが現状でございます。進捗状況としまして、文部科学省のガイドラインを参考に、杉並区版のガイドライン案を作成して、今後、杉並区学校情報セキュリティ ICT 推進会議というところに議題として取り上げて決定していくという算段となっております。

その上で、使われ方の見通しについても、現状はついておらず、実際に現場の先生とも対話を行って、活用シーンのイメージを膨らませて、トライ・アンド・エラーを進めていきたいと考えております。

具体的には、現時点で個人情報を取り扱うと外部に流出するおそれも

あるというところがありますので、教職員が個人情報ではない事項、挨拶文であるとか通知文などの作成に利用するというものを、スモールスタートかもしれないのですけれども、そういったところを念頭に検討を行っていく考えであります。

以上となります。

学務課長 では、続きまして学務課長の方から、小学6年生移動教室のプロポーザルの実施についてでございます。小6の移動教室、運営について委託を行っているところなのですが、令和9年度からの運営受託事業者について選定を行う予定にしております、ヒアリング、それから書類審査、現地審査などで選定していく予定でございます。

審査員については、教育委員会の部課長とか、校長も入って審査していくつもりです。

移動教室ですが、子どもたちが様々な体験をする上で、けがなく元気にしっかりと家に帰れるというのが何よりも大切と考えております。ですので、今回事業者を選定するに当たっては、例えばアレルギー対応であるとか、宿の安全対策、それから体験学習やバスの運行の安全性など、受託事業者が多くの子どもたちを安全に移動教室に参加させるという認識をしっかりと持っているのかどうか、そのためにどんな対応ができるのか、そういったものを選定の中で具体的にしっかりと見極めていく必要がある、そのように考えております。

現時点で、私たちが事務局となりますので、的確に審査員が審査を行えるように、どんな企画提案書を出させるべきかとか、審査票の案とかを今、考えているところでございます。

課題についてなのですが、今すぐに何か改善しなければいけないという課題ではないのですが、やはり移動教室を取り巻く環境、状況というものもすごく大きく変化していると思っております。児童の生活様式の変化もありますし、あと教職員の働き方改革というものも言われています。そのほかやはり物価高騰に対応して、保護者の負担軽減という視点もやはり大切になるかと思っておりますので、そういったもの全て、小6だけではなく、ほかの学年の移動教室も含めまして、目的、効果を改めて今年度は整理していきたいと考えていますので、その中で具体的な課題というものも洗い出して、改善策を練っていききたいと思っております。

また、小学校5年生の移動教室でございますが、委託は入れずに、学

務課の方で宿の確保とか調整、体験学習の契約等を行っております。こちらについては河口湖方面で行っております、富士学園があった時代と同様に、地元の宿と連携してのほうとう体験なども引き続いて行っているところでございます。

私からは以上です。

学校整備課長 学校整備課長です。プールの関係です。昨今、プールを使った授業がどの程度できているのかというところですが、令和4年度に全校にアンケート調査をしております、小学校ですと計画授業時間数は10時間程度、それに対して実際平均で8時間程度行っています。また、中学校については、計画が13時間のところを平均で12時間行っていると。また、中止になった場合の中止の理由ですね、こちらについても聞いてまして、一番多いのがやはり悪天候、これは雨とかひょうとかそういったもの、これが大体3分の1ぐらい。それから次に多いのが低温で27%、その次が高温で17%、光化学スモックが16%、そんな形になっておりますので、もともと6月から7月というのは梅雨ですとか台風だとか悪天候、荒天になって中止になるケースも多いという中で、もともと代替の日程というのを確保しながら、中止になった場合に振り替えるという予定を各校で組んでいると聞いておりますので、そうした点からも全く授業が暑さでできていないところまでには至っていないのかなと捉えております。

ただ、昨年、一昨年、また非常に暑くなっているというところもございますので、今年度についても少しそのあたりの実態をまた把握しながら、検討を進めていきたいと考えております。

それから防火用水の関係だと思えますけれども、現在、全ての学校プールについては消防水利に指定がされておまして、震災時ですとか、消防活動の活用が想定されております。消防水利については、消防署の方で地域ごとに特に必要性が高い地域ですとか、逆に足りていない地域ですとか、是非とも欲しいという地域ですとかそれぞれ把握してございます。仮に今後、学校のプールを、改築を機になくすということがあるとするならば、それに対応して必要性が高い地域については、例えば地下ピットのところに防火水槽を設けるですとか、そういった代償措置についても併せて検討していくことになるかなと考えております。

私からは以上です。

庶務課長 ほかにいかがでしょうか。

大川委員 私からは大きく二つなのですけれども、まず庶務課、2ページの関係で、「いじめ対策等の実施」というのが1番にあるのですが、そのうちの「いじめ重大事態の調査以外の機能強化を図る」、この「以外」は具体的にどういったことをお考えになっているか。

それに関連して全体的に見ていくと、例えばマニュアルを今年も改訂しなくてはならないねという課題もあったと思いますし、啓発普及を行うとありますから、その取組もしなくてはならないということだと思えます。

加えて、今までに頂いた資料で、文科省が作った「『令和の日本型学校教育』を推進する地方教育行政の充実に向けて」という資料では、いじめの緊急事態、重大事態に対応する訓練を実施している自治体もあるようなのですね。起こってから泥縄式にやるというのではなくて、もう訓練をやってしまうという案も出されています。これはすごく役立つと思いますし、重大事態になった時の首長、区長部局との連携も必ず必要になると。どのように公表していくのか、それから調査した結果に基づいて今度区長部局もまた別の調査を求められたりするのではないかとか、そういったのは一度シミュレーションしておかないと後手後手に回ると思いますので、こういった訓練は是非取り入れたらいかがかしらと。せっかく総合教育会議をいっぱい実施しましょうということもありますから、連携を図るという意味でも役立つものだと思います。

そういった意味で、この重大事態の調査以外の機能強化としてどんなことをお考えなのかを教えてください。それが大きな点の1点目。ちょっとここまでお願いします。

庶務課長 いじめ重大事態の調査以外の機能強化というお尋ねですけれども、4月に施行いたしました「杉並区いじめの防止等に関する条例」では、所掌事項として重大事態調査の実施のほかに、区立学校におけるいじめの防止等のための対策に関して必要な事項について調査、審議を行うということを規定してございまして、令和7年度につきましては区におけるいじめの防止等のための対策に係る助言・提言や、重大事態には至っていない事案における学校及び教育委員会の対応に係る助言など、日常的ないじめの防止対策につきまして、大所高所からご意見を頂くことなどを考えてございます。

それから重大事態の訓練ということでご提案を頂きました。戸田市の取組のことだと思えますけれども、この戸田市の状況で申し上げますと、戸田市が訓練を実施した平成 27 年当時ですが、戸田市ではまだいじめ重大事態が発生していないという状況の中で、どの子どもにもどの学校にもいじめは起こり得るということで、全市を挙げて危機管理意識を一層高めていくことが重要との考えで訓練を実施したというお話でございます。

これに対しまして、杉並区では、もう今まさに重大事態が複数発生しているという状況もございまして、法やガイドラインにのっとった対応を進めているところでございます。

したがいまして、戸田市と同様の対応訓練も非常に有効な対策と考えられますが、今現在、杉並区で進めている対応については継続的に検証していくことが、まずは有効な対策なのかなと考えてございます。

特に令和 7 年度は、いじめ問題対策委員会に調査部会を設けて対策の強化を図ったり、それから教育人事・指導課に新たな組織を設けて、対策に重点を置くなど、そういった形で今、対応を進めておるところでございます。まずはこの体制を円滑に稼働させて、うまく機能させていくこと、これが教育委員会としては重要なものと考えております。

あと、いじめ問題への対応、それから重大事態への対応に関しましては、いじめ問題対策委員会の事務局を担う庶務課と、それからいじめの防止等のための対策を担う教育人事・指導課、これが密に連携することが大変重要なことと考えておりました。両課が定期的に情報を共有して、その対応策をともに検討していくことで、より多くの視点からいじめ問題に対応する中で、今後ご提案の訓練のあり方についても併せて考えてまいりたいと思っております。

大川委員 ありがとうございます。よく分かりました。いじめ問題対策委員会は、学識経験者とか専門家で組織されているから、その方々にはそういった知見を基に助言、提言を頂くということ、あとは事務局を含めたところでの実際の対応を通じた継続的な検証をきっちり図っていくということでよく分かりましたので、よろしく願いいたします。

次に、もう一つ、教育人事・指導課の 4 ページの関係で、「区立学校等におけるハラスメントの防止」というのがありました。ここにある 1 から 4 の全体は、学校の先生方が気持ちよく働けるということは、結局

余裕ができて子どもに還元されるということですので、とても大切なことだと思います。

その中で、特に4番目のハラスメントの防止についてちょっと気になったのが、管理職向けの研修にとどまっているという点です。私も別でハラスメント関係の講師とかそういったものをやっていますが、管理職だけではなくて、どちらかという管理職はやる側ですから、やる側が研修を聞いてやらなくなっていたら、そういう人ってやらないのですよ。むしろ全体に知っていただいて、ハラスメントを受ける側の一般の職員の方々も、こういうのが実際はハラスメントだったのだと気付いて、部長、課長、これハラスメントですよと言えるような土壌を作るって大切だと思うのです。ですので、管理職だけでなく全体に、例えば巡回して行くとか、学校ごとに行き行って教えるとか、そういったことやオンデマンドでもいいと思うのですけれども、全体に広げていくのは有効ではないかなというのが、そういう希望が1点です。

あと、その受講歴は分かるようにしておいてほしいのですね。今度は逆にハラスメントで懲戒処分などをする時には、処分を決める判決ではないですけど書類を書く中では、ハラスメント防止研修を受けていた、受けていないというのを量定の一内容としています。受けてない人は論外。例えば3年間、毎年研修をやっていたけれども、この人一度も受けてないというのは全然駄目で、受けていたけれどもやったというのがぎりぎりプラマイゼロみたいな感じですかね。何のために研修するかというと、その出口でも役立たせるためですから、全員研修をやって、そういったものは記録にとっておいて、もし万が一そういうことが起こった時には、ちゃんとそれは量定に反映させるという工夫も必要だと思います。

あと、もう一つは、カスハラ的な保護者等による過剰な苦情、不当な要求というの、これは学校の先生を守っていくためには対応を是非していただきたい。現場の方が知識、理解がなければ萎縮してしまったり、土下座してしまったり、文章、わび状を渡してしまったりすると思いますので、是非こういった研修で防止できるようなこともいっぱいあると思いますので、ハラスメントの防止については具体的に対応していただきたいと思います。よろしくお願いします。

教育人事・指導課長 委員から今、お話を頂いたところは、言葉が思い

浮かばないのですけれども、参考にというか、大変勉強になりました。是非管理職だけではなく一般の教職員にもという研修のお話を頂きましたので、こちらについてはちょっと今年度具体的にというの、今のところないのですが、実はハラスメントの関係、いわゆる相談の窓口ですとか、そういったものについては全員に周知をしております。区長部局の方でもハラスメントについてのお知らせがあったのをきっかけにして、教職員の方にも相談窓口の周知を、C4th というシステムを使って全員が見られる場所で周知をしているところがございます。

あと管理職の研修の中で、やはり教職員、管理職だけではなくやっぱり教職員の方にもこれを伝えてもらいたいというところをまずは周知していくのと同時に、今年度ハラスメントの調査を行う予定ですので、その調査を足がかりにして教職員にどのような研修が必要なのか、もしくは研修ができなくても周知が必要なのかというところを、そのアンケートからも確認をしていきながら進めてまいりたいと思います。

あとカスタマーハラスメントの件については、実は最近東京都の教育委員会の方から、教職員向けにいわゆるアンケートの実施ということで通知が参りまして、教職員の方にアンケートをお願いしているところです。任意のアンケートであるのですけれども。そのアンケート結果をもちまして、東京都の方からいわゆるカスタマーハラスメントについての様々な施策ですとか、そういったものを検討していくという話を聞いていますので、それも併せて見ながら、何がカスタマーハラスメントに当たるのか。先ほど委員からもお話しいただいたところを私たちも確認していきながら、これは我々、都の方のそういった通知を待つことにはなるのですが、その結果をもって私たちの方も教職員に、これはハラスメントに当たりますよ、なので相談してくださいとか、こう対応してくださいということが言えるように、少し時間は頂きますが、進めてまいりたいと思います。

大川委員 是非よろしく申し上げます。特に教育委員会に限らず、公務員というのはカスハラの対象にすごくなりやすいですね。ほかに代替性がなくて、お断りできないという前提が皆さんの頭にあって、更に公教育だと、ではうちの学校をやめてほかに行ってくださいというのもできない。ですから土壌としてはカスハラがすごく起こりやすいと思いますので、是非対応していただきたいと思います。

庶務課長 ほかにいかがでしょうか。お願いします。

伊井委員 今、皆様からの質問をお答えいただいているので、私からはちょっと違うことをお聞きしたいと思いますので、これまでの皆様からの説明の中で、私の方でも、それはそういうことだったのかというのが納得できたものに関してはお尋ねしないと思いますので、そこをご理解いただけたら幸いです。

1点目は、庶務課と、それから学校 ICT 担当の方にお聞きしたいのですが、ここの庶務課学校 ICT 係に済美教育センターの事業を移管し、学校 ICT に係る組織を統合したというところがございましたが、ここと済美教育センターの方との関わりですね、ICT の使い方に関する関わりであったり、また、杉並区学校情報セキュリティ ICT 推進会議というのもあるのですけれども、そのあたりもどういう関わり、どういう頻度で会議を開いていくのか、どんなメンバーなのかというのが分かる範囲で構わないので、この ICT 教育がどのようになっていくかという見通しをお伺いできたらなと思うのが1点です。

それから、ホームページに関してなのですが、学校によって大分違うと思うので、そのあたりについてもどのようにお考えかをお聞かせいただけたらと思います。

それから、教育人事・指導課の方ですけど、今、ハラスメント等につきましては大変取組として前向きなお話を伺いました。天沼小学校と天沼中学校に都の外部コンサルタントを導入したと伺っておりますが、そのあたりの詳細を分かる範囲で教えていただけたらと思います。

それから、特別支援教育なのですが、済美養護学校のセンター的機能について、現在どのような見通しであるのかをお聞きできたらと思います。

あと学校整備課の方では、プールのあり方について先ほど詳細にご説明いただきありがとうございました。今後、長寿命化について進めていかれると思うのですが、地域がどれだけ関係するか分からないのですけれども、そのあたりどのような調整を図っていかれているのかということをお聞かせいただけたらありがたいなと思います。よろしく願いいたします。

学校 ICT 担当課長 まず今後学校 ICT 授業に係るといったところの中で、ご認識いただいているとおり、これまで環境整備側と活用側の担当が物

理的に離れていた中で、ICTの環境整備と活用については一体的に行うことを目的として組織等されたことを受けまして、庶務課学校ICT担当が授業に係るICTの活用について企画であったり、先導していくとともに、教育人事・指導課の指導主事とともに迅速に対応ができるような形で進めていきたいと考えています。

2点目、杉並区学校情報セキュリティICT推進会議の中では、現時点では年4回の定例会を予定しております。

続いて、区内の学校ホームページのあり方もご認識いただいているとおり、現状は区立学校のホームページというのが、学校の自主的な判断で運営されている状況でございます。今後のあり方については、昨年度各学校を対象に行ったアンケートがありまして、その結果を踏まえて教育委員会としての広報のあり方、どのようなあり方がよいかというところも含め、先ほど申し上げた杉並区学校情報セキュリティICT推進会議にて検討してまいりたいと考えております。

以上となります。

伊井委員 ありがとうございます。すごくよく分かりました。推進会議がそういったことも含めて、具体的にいろいろお話しいただいて、検討いただけるのかなと思うと、とても期待できるなと思います。よろしく願いいたします。

教育人事・指導課長 業務改善の天沼小学校、天沼中学校の内容なのですけれども、まず初めに、既に動き始めていまして、このコンサル業者が校長、副校長にまずは学校の状況等、どんな改革を行いたいのかというヒアリングを今してもらっています。その上で、中核となる教員に今度個別にヒアリングを行う予定です。スケジュール感でお伝えしますと、その後、教職員にアンケートをとり、そのアンケートの中からこの先生の働き方を確認したいという先生に、シャドーイングといたしまして、係の方が何日か張りつきで、何をやっている、この時間はこういうものに使っているというところを調べていただきながら、その結果、こういった業務改善ができるのではないかとこののをコンサルの方にもご提案を頂くと。その提案いただいたものについて、教員と管理職合わせて、いわゆるミーティング、ディスカッションを行い、ブレインストーミング的にこういうことならできるのではないかとこののを、先生方自身が相談して行って、実際にできるものとできないもの、できるものを9月ぐ

らいから実践してやっていこうというスケジュール感で組みたいというお話を伺っています。

ただ、これはあくまでもコンサルが提案してくださっているお話であって、管理職と中心になる先生方と今ヒアリングを行っているところで、場合によっては方法が変わる可能性もあるということです。つまりその学校に合わせたやり方というのを模索していきたいというのがコンサル側のお話であって、両校長とも「そういうことですね」ということで、非常にいい雰囲気です。スタートができそうなところではあります。

なお、教育委員会としましては、コンサルのノウハウですね、これになるべく一緒に同行して模倣ができるように、改良できるように、横展開ができるようにということで進めていかれるのが理想かなということで、そこを目指していきたいということで考えているところです。ちょっと長くなりました。

伊井委員 ありがとうございます。新しい切り口なのかなと思うので、是非お力添えいただきながら、またコンサルの方々がどういったことを今までやっていらしたかちょっと分からないのですが、学校の風土であったり、それから先生方のお考えとか、いろいろ諸事情が学校にあるので、そのあたりも新しい切り口であるけれども、いい突破口になったりとか、それから業務改善したら、働き方改革、最終的には時間的なもの、それから子どもたちとの対応みたいなものにもつながっていくといいのかなと大変期待しております。よろしく願いいたします。

特別支援教育課長 センターの機能についての現在の企画ですとか見通しに関するご質問にお答えいたします。

センター的機能なのではございますけれども、学校教育法の中で特別支援学校は地域の小中学校の要請に応じて必要な助言等を行う役割が一つとなっているところなのですが、本区の強みとしましては、23区で唯一の区立の知的障害教育特別支援学校があることが非常に強みになっていると感じております。その済美養護学校教員の専門性を生かしまして、特別支援教育に対する理解、啓発を、区内全校を対象に行っていく仕組みを構築していきたいと考えております。具体的には教員、保護者の相談支援ですとか、あと特別支援教育に関わる情報提供、障害のある子どもへの指導だったり支援、教員に対する研修、あと教材教具などかなり済美養護学校は充実したものがありますので、そういったものの提供などが考

えられると考えております。

加えて、本年度の取組といたしましては、教員対象の研修について済美養護学校と連携をいたしまして、済美養護学校教員が具体的に講師を務めまして、発達特性のある児童・生徒に対する具体的な指導方法を学べる機会を設定したいと考えてございます。

学校整備課長 学校整備課長です。長寿命化の改修について、地域ですか学校とどのように調整しているのかというご質問だったかと思いますが、長寿命化の改修は具体的にどういうものかといいますと、例えば屋上の防水とかを定期的に更新するであるとか、外壁ですとか内装をきれいにするですとか、あと給食室とかトイレの改修、それから照明をLEDに替えるとか、天井裏に断熱材を敷いて断熱性を高めるですとか、そういった様々な改修をするのですが、そういった改修ですので、特に地域の方と何か調整・説明というケースは少ないかなと思っています。

ただ、学校との調整という面では、当然学校が運営しながら改修をしますので、そこは密にやっております。基本的にはやはり夏休みにしかできない工事というのが大半。屋上工事とかそういったところはいつでもできますが、それ以外の使っている部屋についてはどうしても夏にしかできないというところで、学校と日程調整をして3年、4年かかって各年度でどういった改修をしていくか、そこは調整をして、計画を組んでやっていく、そんな調整をしていると。いずれにしても学校運営になるべく支障がないような形での調整をやっていると、そんな状況でございます。

伊井委員 ありがとうございます。走りながらの調整になるので、学校側もなかなかお休みの時だけというわけにはいかない部分もあるかと思いますが、現在、資材の高騰とか、人をなかなか確保できないとか、いろいろご苦労があると思いますけれども、子どもたちの学びにできるだけ支障のないようにご尽力いただき、今も頂いているのですが、今後どうぞよろしく願いいたします。

それから特別支援の方ですが、養護学校のノウハウは教育委員の方で伺った時に、給食一つからしてものすごく配慮されていて、努力もされていて、それがどのように児童・生徒さんたちの成長につながっているのをご本心にひしひしと感じた次第です。そういったノウハウが区の多くの学校で共有されるといいなと思いつつ、養護学校も毎日学びを

進めているので、このあたりの先生方での時間調整とか、どんな形にしたら共有できるのかというあたりも十分にご検討いただけたらいいなと思います。よろしく願いいたします。

特別支援教育課長 ありがとうございます。

庶務課長 ほかは。

前田委員 皆さんの質疑を伺っている中で、もう少し聞いてみたいなと思ったことがあったので、ちょっとお伝えしたいと思います。

一つは学校の DX についてなのですけれども、多分昨年の話だと思うのですが、文科省が実施している調査の順位がよくなかったというのは私たちも聞かせていただきました。ネットワークの強化などで大分達成できる見込みが増えていると聞いているのですが、先ほどご説明がありましたけれども、今後順位とかを考えた時に、どこら辺を目指していくかみたいな、順位を競うわけではないのですが、今、いろいろな取組、昨年度もやっぱりたくさんお金をかけて杉並区としてやっている時に、効果がやはり出ないとどうなのだみたいな話にもなってくると思いますので、是非よい取組にしていききたいなという期待を込めまして、そういう目標みたいなのはこの後、設定されるのでしょうか。

学校 ICT 担当課長 おっしゃっていただいたとおり、裏を返せばほかの課題と比べて具体的な数字、明確な数字というのを目指せるものでもあるなと思うので、目指すべき順位であったり、得点であったりというのは、この後定めていきます。

その中で、今回 8 月末に向けて再構築というものがありますので、ここでまずは環境が変わったことによって、学校設置者、教育委員会側がどのように変わるのかといったところも含めて、そこで学校にどのようにアプローチしていくのかというところを軸に、こちらの課題に関しては進めていきたいと考えております。

前田委員 ありがとうございます。この間もまずは教育委員会からみたいな話もあったと思いますので、是非私たちも襟を正してといいますか、気を引き締めてやっていきたいなと思っております。

もう一つが、教育人事・指導課のさっきのコンサルの話なのですけれども、コンサルの方が入って、いろいろシャドーイングをされる中で、多分 ICT に絡むこととか、それこそ教育委員会との情報共有とかで、学校固有というよりは本当に学校の中だけではなくて、外との情報連携

でいろいろ課題といいますか、出てくるかと思うのですが、例えば教育委員会と紙でやり取りしてるいもの、あるかどうか分からないですが、そういったものの改善は、すごく横展開しやすいのかなと思います。学校内だけではなくて、教育委員会とかほかの外との連携がもっと効率よくなるとか、そういう取組まで見据えていくものなのかなとちょっと想像しているのですが、どういうところまで取組の提言が出るものなのでしょう。学校の中でとどまるのではなくて、教育委員会とのやり取りとか含め、そういうところまでいくのかなという見通しがあれば。

教育人事・指導課長 今、委員にお話しいただいたところも、コンサルと学校の中でそういった話題が出てきた時には、教育委員会にもご協力いただきたいという話は、この事業を受ける時に頂いています。ただ、正直に申し上げますと、それを区全体のこととして予算化できるところまで積み上げられるかどうかというところはなかなかどうかというところはあるのですが、やはり学校全体、いわゆる区全体で進めていくためには必要なものが出てきた場合には、それは検討に乗せていくことを課としては考えていきたいなというところはあります。

なの、DXについては、校長の方からその提案もありまして、この間のキックオフミーティングの時にやっぱり出ておりました、それを活用することによって、やはり負担軽減や何かができるという話は出ていますので、そちらについても今、期待をしているところであります。

前田委員 ありがとうございます。是非1校のモデルとしてひとつ取り組んでいただくと思うのですが、それが横にも広がりますし、例えばICTとか含め教育委員会で取り組むべきことが出てくると思いますので、是非この進捗も含め、私たちもお聞かせいただけるとうれしいなと思っておりますので、また教えてください。

あと最後になりますが、済美養護学校についてなのですけれども、ちょっと教えてほしいのですが、済美養護学校は知的障害のお子さんのところになるのかなと。情緒障害とかは済美教育センターになるのかとか、そこら辺の区別がというか、どこがどう担当するのかよく分かっていなくて、センター機能となった時にそこまで含まれるのかとか含め、役割分担を教えてください。

特別支援教育課長 私どもの特別支援教育課の方で特別な配慮を要するお子様に対しての支援を行っておりますので、情緒障害の方であったり

ですとか、それ以外の発達障害のお子様とか、そういった方の支援というのは私どもの特別支援教育課の方で所掌してございます。

先ほどご説明させていただいたセンター的機能に関しましては、その取組の一つといたしまして済美養護学校の教員の専門性を生かして、それを区立学校全校に展開できるように、研修であったりとかはもちろん済美教育センターと連携をして行いますし、あと実際に昨日も済美養護学校の校長先生とお話をしてきて、いろいろ今後の進め方とか打合せをさせていただいたのですけれども、そういった中で教育委員会の中で連携をして取り組んでいきたいと考えているところです。

前田委員会 どうもありがとうございました。ちょっとごめんなさい、伺ったのは不登校のお子さんにはやっぱり情緒のいろいろな課題があったりするのですごく絡むなと思ったので、どのように連携して動かれるのかなというのが質問の前提としてありました。近いところにいらっしゃるかと思しますので、お互い情報を共有しながら、各校にいろいろ派遣というか足しげく行っていただけるということですので、いろいろな各校のお悩みとかも含めて、調整となると思うのですけれども、是非お力添えいただくといいのかなと思っております。ありがとうございます。

教育人事・指導課長 先ほどの働き方改革のコンサルの件で1点、ごめんなさい、お伝えを忘れていました。このコンサルを申し込むに当たって、地域との連携、いわゆる学校運営協議会ですとか、支援本部との連携ということも課題として出しておりますので、そういった視点もコンサルの方が少し見ているということ、リソースというか、そういった部分では、そこも視野に入っているということをちょっと付け加えさせていただきます。

庶務課長 ほかはよろしいでしょうか。それでは、ないようですので、続きまして資料の後半部分、9ページ以降の学校支援課、生涯学習推進課、済美教育センター、済美教育センター教育相談担当、就学前教育支援センター、中央図書館の主要課題について、ご意見、ご質問等があればお願いします。それでは、大川委員、お願いします。

大川委員 9ページの学校支援課の関係で、まず朝の居場所活動の実施というのが3番目にありますが、5月以降準備の整った2校程度で実施するとありますが、これはどんな準備が必要というか、想定して、まず2校が整うのか。そして何を整えたら今後ほかのところでも実施できる

のかを教えてくださいというのが1点です。

あと学校施設の有効活用については教えてほしいというよりも、利用させる、利用させないについて、法律的な視点も取り入れながらというか、結構これ有名な論点なのですね。なのでそういった面で見落としのないように検討しておいてくださいというところが1点です。

あと、ページが違うところに行ってしまいますけれども、済美教育センター、12 ページです。2番目の項目の一体的見直しとか、ここが先ほど次長からおっしゃられた、計画全体を私が把握していないからちょっと理解が追いついていかないのかもしれないのですけれども、この見直しを図るとか、検討を行うというのは何年計画で、今どこまで来ているのか、そこがよく分からないので、特にこの2番目の不登校支援の取組の一体的な見直しは何を見直すのというところを教えてください。

あと3番目のところで、教育相談室の初回相談までの期間を短縮とあるのですけれども、これ今、どれぐらいお待たせしているのかということです。1回目まで例えば3か月とか6か月だったら子どもの状況も変わってしまうでしょうから、そこが分かったら教えてくださいなというところです。

最後は、中央図書館のところでデジタルアーカイブ化、ここはすごく期待というか、すごく活用できたら面白いのかなと思ひまして。デジタルで国会図書館とか公文書館を見ると、ものすごく充実しているではないですか。特集したものを後から見られるとなると、特設展がいつも見られるぐらいの楽しさがあるので、実際どう活用していくのかを想定しているのか教えてください。

以上、大きく三つです。

学校支援課長 朝の居場所活動の実施について、「準備が整った」というところですね。杉並区において朝の居場所づくりは、区内の全小学校に設置されている学校支援本部を主体に取組を進めていこうということで、今、準備を進めているところということでございます。ですので、まず区内の学校支援本部の中で、こうした取組に賛同いただける取組主体の意向というのがまず大きなところとしてあります。

また、小学校においては朝、少年団体が朝練でサッカーをやっていたりとか、そういうところもありますので、学校施設が朝の時間に校庭を含めて、雨天の場合もありますので、どういった施設が使えるのかとい

う施設の場所の確保の問題というのがございます。

そして、地域の子どもを地域で見守ろうという地域人材の方々の賛同というものが必要ですので、地域人材、どのくらい確保できるのかというあたりの見通し、また、児童の安全管理の体制、保険のことを含めて、そうしたことを取組主体と一緒に話し合いをしながら、現在、準備を進めているということで、この準備が整ったところから、できれば1学期の中盤からスタートさせていきたいと考えております。

また、学校施設の活用に当たってということで、先ほどご紹介いただいたのは、平成18年の最高裁の公立学校施設の目的外使用と管理者の裁量権という判例かと思えます。私ども学校の施設開放に当たりましては、こうした判例を含め学校の開放に関する規則、また、判例の中では目的外使用のことも触れられているわけなのですが、学校施設の目的外使用に当たっての取扱いの要綱、こういったものを定めて運用しているという状況でございます。頂いた観点を踏まえて引き続き、意図せぬトラブル、そういうものが起きないように対応していきたいと考えております。

大川委員 ありがとうございます。よろしく申し上げます。

教育相談担当課長 教育相談担当課長です。先ほど大川委員から頂きました教育相談事業の一体的見直しについてと、あとは相談体制についてかと思えますので、そちらについてお答えをさせていただきます。

現状スケジュール感についてですが、いつまでに何をというのが明確にお示しできるものはございません。ただ、今、当課としてどういった方向で見直しを図ろうかということに関しましては、不登校支援事業全体について、各取組の目的ですとか、位置づけを整理し、支援の重なりですとか、支援が十分でない部分というのが見直しを図ることで明確になってくると思えますので、そういったところから改めて目的や方法を確認したり、改善していくためにどういうスケジュールで進めていくかというのを検討していく、そういったことを考えてございます。

もう1点、初回面接についてです。実際に現状、初回面接を受けるまでに時間がかかったりですとか、あとお仕事されている保護者の方もいらっしゃると思いますので、なかなか希望どおりにいかないという部分がございます。現状1か月程度、初回面接までかかっているケースがありますので、それを短縮させていきたいと考えてございます。

大川委員 ありがとうございます。やっぱり1か月というのだと、実際に子どもを抱えて悩んでいる方にとってはものすごく長いと思いますし、その間にいろいろなところに当たっては打ちひしがれているというご家庭も本業では目にしていますので、是非力になってあげられるようにしていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

教育相談担当課長 おっしゃるとおり児童・生徒だけではなくて保護者の方の抱えている困り感というのに、しっかり寄り添っていく必要があると思っております。現状相談員を増員したりですとか、初回面接を当番制にするということで、新たな取組をしながら、確実に期間は短くなってございます。どのくらいかといいますと、早い場合ですと2週間ぐらいいままで短縮できるようになってきております。ただ、それが単発で終わらないように継続してそういう体制を整えていけるように、これからはしっかりと課内で内容を検討しながら進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

大川委員 よろしくをお願いします。

中央図書館長 では、中央図書館です。最後になります。いろいろな特別展とか展示については、実はもう既に別サイトでアーカイブ化されておりまして、例えば文化交流課とか、それから郷土博物館の展示などについては、区の公式ホームページの中を探っていけばそういうのは全て見られるのですが、いずれにしても、今度私どもの展示等がアーカイブ化になった時には、リンクをしていくような形を考えているところです。イメージ的には図書資料、文字とか図とか絵、そういうのをそれぞれリリースしていく形になると思いますが、やはりその図書館なり場所に行かなければ見られなかった資料を誰でも、いつでも、どこでも見られる形でそれを活用していただくこうと考えるところですが、やはり活用方法としては、ただ古い資料を見るだけではなくて、いろいろデータ加工できるようにしたりして、すぐ2次使用ができるような形で考えているところです。

一番顕著な例は、例えば郷土学習、それから地元の伝統文化教育、そういうところに教材として使うように今は考えられるかなと思っております。

それと、ほかの区になりますけれども、防災教育でも、資料を加工して作るというところもあります。

いずれにしても、それだけではなくて広く全国、全世界について、いろいろな研究とか何かの資料に提供するような形での活用を考えているところです。ありがとうございます。

大川委員 小学校、中学校の地域の学びなどにも十分活用できると思いますので、どんどん広げていってほしいと思います。よろしく願います。

中央図書館長 ありがとうございます。やはりこれによって郷土愛とか、郷土を知るということがより充実していければなと考えているところでございます。

庶務課長 ほかはいかがでしょうか。では、對馬委員、お願いします。

對馬委員 11 ページの済美教育センターのところで、三つほどお伺いしたいところがあるのですけれども、まず、そもそも1番の一番下に書いてある済美教育センターの設置目的を見直しとある、設置目的はそもそも何だというところを一応確認させていただきたい。検討を進めるというのは、どのように原点に戻ろうとしているのか、あるいは時代に合わせて変わっていてもそれは仕方がない、目的が変わっていても仕方がないねという意味でのことをここに書いてあるのかどうかということが一つ。

そのもう1個上の丸のところ、小学校教科担任制、チーム担任制ということで、私は前から申し上げているようにこれは非常にいい取組だとは思っているのですが、現在、区内の小学校でどのぐらいこれに取り組んでいるのか、取り組んだところはどんな課題があるのか。とてもいいとは思っているのですが、採用の時点というか、教員として育てられる時点で、小学校は全科が基本なので、中学校と違いますから、教科で採用しているわけでも、配置されているわけでもない、配置された先生方をどう当てはめていくかというのはものすごく大変だと思うのですね。ですので、現状、どのようにやったらうまく機能していくのか、進んでいくのかは非常にいろいろな課題があるのではないかなと思いますので、その辺もし整理されていることがあれば教えていただきたいということ。

3番のところですか、一番下の研修の部分で、何年か前から訪問要請型というのを多く取り入れていらっしゃると思いますが、どのぐらいこれを希望される学校があって、どんな内容だと訪問がむしろ多い、

どんな内容だと集合型が人気があるではないですけれども、利用される方が多いとか、そのあたりを教えていただけるとうれしいです。

以上3点です。

済美教育センター所長 私からは1点目の済美教育センターの設置目的のところについてです。

本当に古くは済美教育研究所とっていただいていたぐらいですから、様々な教育課題の研究をしたり、教員の人材育成に特化したところが設置目的だったかなと思うのですが、その後、様々なその時代ごとの検討を経て、学校の教育活動全般の支援に移っていったかなと思います。加えて、新たな教育課題がその時代時代で出てきた時に、例えば国際理解についてもっと推進していこうとか、そういうことで様々な機能が加わってきていて、今、機能がとても肥大しているというのが現状です。

今回の組織改正で少しそこが緩和されたところではあるのですが、センターとしてはやはり原点に戻って、人材育成、研究や研修をしっかりしていくべきかなという考えを持っておりますが、一方それにはすごく時間もかかってしまうので、やはり人も替わっていきますし、一気に進めていくことは現実的ではないだろうということなので今、2段階ぐらいで考えていまして、まずはやはり学校の教育活動を支援するというところに合致していない事業については、しっかりと見直しをしていくということ。その上で、人材育成に特化した機能にしていこうということ、教育ビジョンの推進計画ですとか、区の総合計画、実行計画の改定のタイミングに合わせて動いていこうということなので今、考えております。

以上です。

済美教育センター統括指導主事（齊藤） 私の方からは、2点目の小学校教科担任制の数とその課題についてお話しさせていただきます。

まず1点目は、令和7年度、東京都の事業として小学校教科担任制を行っているのは2校、また、本区で独自に工夫をして行っている学校は17校、計19校に取り組んでいただいているところでございます。

質問の2点目で、それを踏まえてどういう課題があるかということ、学校側としての課題は主に2点あります。まず先ほどご質問をされましたけど、時間割の作成がとても困難で複雑化しているというのは、やはり一番の問題かと思われまます。また、それぞれの担任が各教科を持ちますので、教員間のコミュニケーションを今以上に密にしていかなければい

けないという課題が挙げられております。

教育委員会としては、1学年にわたる教員数を増やさなくてはならないということが課題として挙げられます。小学校は学級担任制ですので、そこを教科担任制にするためには人員を増やす必要があるということで、その人員の確保が教育委員会としては課題だと考えております。

済美教育センター統括指導主事（清水） 私からは、3つ目の研修のことについてお話しさせていただきます。

まず済美教育センターの訪問型要請研修でございますが、昨年度、令和6年度は42校から要請がありまして、1校から何回も来るということもございましたので、合計すると170件ほどの要請がございました。内容のニーズなのですが、主に若手教員の授業の支援で、学校のニーズにお応えできますので、例えば単元計画から一緒に作成しましょうとか、授業を見て改善点を指導したりですとか、そういったニーズにお応えできるということになっています。

教科としては道徳、国語、算数などが多かったです。あとICT活用ですね。特に他地区から来た方は、入っているソフトが違っていたりですとか、電子黒板の仕様が違っていたりしましたので、そういった使い方などでも呼ばれることがございました。

逆に集合型の研修ですと、済美教育センターがこういう研修を行いますということになりますので、例えば職層ですね、何年目の方はこの研修を受けてくださいとか、あとは学校の役割、教務主任とか研究主任とかという方を集めての研修ということになりますので、その辺が違っているかなというところでございます。

以上です。

庶務課長 すみません、私から先ほどのセンター所長の組織改正の関係で若干補足をさせていただければと思います。

庶務課の主要課題においても、教育委員会事務局組織の改編検討ということで掲げさせていただいております。センターの組織改編、これは事務局全体の組織改編のごく一部ということでお考えいただければと思います。

それを令和7年4月の段階で一部実施をいたしました、それで終わりということではございませんで、各課での分掌事務、そこを総合的に見ながら、例えば役割などが重複している、それから何か不便がある、

現場が遠いとか、そういったいろいろ課題を全部捉えて、総合的にこれから考えてまいります。そしてこれは単年度で終わるものではなく、複数年度、毎年度見直しは継続して図ってまいります予定でございます。

ほかはいかがでしょうか。

伊井委員 大分皆さんからお話が出ましたので、かいつまんで生涯学習推進課のIMAGINUSの実績と現状、それから、済美教育センター教育相談担当の学びの多様化学校と、「チーム学校」の一員としてSSWが機能できる学校配置型、このモデル校に関して、そのあたりの進捗状況であったり、まだ進んでいないけれどもこういうことを目指しているという内容でしたら、それをお聞かせいただけたらと思います。よろしく願いいたします。

生涯学習推進課長 IMAGINUSの実績、現状についてでございます。ご存じのとおり、IMAGINUSは令和5年10月にグランドオープンいたしまして、令和5年度につきましては約半年間の実績が積み上がりまして、この6年度に初めて1年度間の事業実施が積み上がったという状況になっております。

もともと区が所有いたします建物を借り受けて、民間事業者が入場料等の収入で民間施設として独立採算制により事業実施をしていくというところが眼目でございますが、もともとはかつて区が科学館を設置して、学校教育分野と生涯学習分野、それぞれに対応する事業を提供しておりましたので、これを提供する機能を当然有している状況でございます。

自治体が所有いたします設備や人材、勤務する方の知見ということになりますけれども、どうしても日進月歩の科学の分野でございますので、最新の機器であるとか、知見を有するということであるというところ、民間事業者が優れているところもございましたので、IMAGINUSさんに担っていただいて、最新の知見、区民の方に好評を得て事業実施をしているところでございます。

もともと独立採算でやっていただくということになりますので、来館者数、そこを少しご報告させていただきたいと思っておりますけれども、令和5年度は大人と子ども合わせまして5万560人で行いました。これが半年間のオープンの期間でございます。一方6年度でございますが、大人と子ども合わせまして10万4,453名の方がお越しいただいたことになっております。

あとは、区にお越しただいて行う事業だけではございませんで、出前型の事業としてフィールド、公園であるとか各区民施設、区民センターなどに、学校も含めてでございますがでていってただいて、科学の裾野を広げていただくと、そういった事業の実施をしてきたところでございます。

フィールドに出ていただくところというのは、もともと社会教育の部分で科学館が行っていたところでもありますけれども、科学の体験のためのワークショップであるとか、天文の観望会でございますね、そういったところを実施させていただきまして、大変好評を得たという状況でございます。

伊井委員 ありがとうございます。全体としては入場者数も分かりましたし、そうしましたら採算は問題ないという感じで受け止めてよろしいのでしょうか。

生涯学習推進課長 入館料を基本に独立採算でしていただくところになりますので、安定的な運営はやはり心がけていただく必要がございますので、やはり裾野を広げるということで日々の観覧者、ここに注力していただきたいところもでございます。土日は大分にぎわっておりますが、平日はなかなか難しいところはございますので、区といたしましては、例えば学校の利用などを少し促したり、そういったところを心がけまして、平日などの利用者増につなげてというところをこれから努力していきたいと考えております。

伊井委員 ありがとうございます。出前型の事業なども裾野を広げる大きな一つの方策になると思いますので、是非ご検討いただけたらいいのかなと思います。よろしく願いいたします。

生涯学習推進課長 ありがとうございます。

教育相談担当課長 伊井委員から頂きました学びの多様化学校とSSWについてお答えいたします。

学びの多様化学校の設置に向けた進捗ですが、現在、候補地の選定と場所の絞り込み、また、教育課程についてはコンセプトの検討を始めるところでございます。

SSWにつきましては、令和6年度4校であったものが、令和7年度配置モデル校8校ということで増えておりますので、しっかりと進行しているのではないかなと思っております。

以上です。

伊井委員 ありがとうございます。SSWが常駐でいると考えてよろしいですか。

教育相談担当課長 この配置モデル校に関しては、そこが拠点となって動いていると。

伊井委員 拠点で。

教育相談担当課長 はい。

伊井委員 SSWの方々の活躍は、お子さん方に寄り添って本当によくやっていただけというのを何度も目にしておりますので、大きな力として今後も検討していただけるといいのかなと思います。よろしく願いいたします。

教育相談担当課長 しっかりSSWがどのような動きをしているのか、学校でどのような活動をして、それがどういう成果が上がっているのかというのは、課としてもしっかり捉えていく必要があると思いますので、情報共有しながら進めてまいります。

伊井委員 よろしく願いいたします。専門家の方が近くにいらっしゃるといのは、学校の先生方にとっても大変心強い部分であったりバックアップであったりとか、支えになるのかなと思いますので、多くの人の力であったり、知見を持って学校を支えていたり、子どもたちを支えていくという観点でもご検討いただけるとありがたいです。よろしく願いいたします。

教育相談担当課長 貴重なご意見ありがとうございます。しっかり進めてまいります。

庶務課長 ほかはいかがでしょうか。

前田委員 1点だけ。さっきの教育相談担当の件なのですが、今、伊井委員からあったように、本当にSSWの方を含めいろいろな方に関わっていただいていると思うのですが、昨年度も委員会内でいろいろご質問させていただいたのですが、不登校のお子さん何人という報告は受けてはいるのですが、例えばその子たちがどのように状況が変わっていったりとか、例えばSSWとこういうお話をして、このように変化したとかも含め、大きな数というよりは一人ひとりがどうなっているか、私たち教育委員会の取組がどんな成果になっているかというのを含めて、教育委員会で何かをやったから何かができるというわけではない

と思うのですけれども、やはり一人ひとりがどういう状態であるかというのを、各校と教育委員会がそれぞれ一緒に見ていく必要があるのではないかなと思っているのですが、それが追えている記録は今あったりするのでしょうか。

教育相談担当課長 現状、今ここで正確な数値をお伝えすることはできなくて大変申し訳ないのですが、SSW に関しては月 1 回打合せを行っておりまして、そこでそれぞれ持っているケースの変化ですとか状況というのは共有していこうということで進めておりますので、そこで今、前田委員がおっしゃったことを把握することは可能かなと思っております。

前田委員 ありがとうございます。数というよりはどういう子がどういうケースで、こうなったから例えば重大事態になったりとか、そういうことがあると思いますので、教育相談担当の方だけではなくて、全体で見えていくべき数値だったり、状況だと思しますので、皆さんが情報共有できるような、そういう仕組みも考えつつ面でも対応できたらと思っていますので、その取組も是非よろしくをお願いします。

教育相談担当課長 貴重なご意見ありがとうございます。しっかりみんなでも共有しながら、多くの目で対応していけるようにしていきたいと思っています。ありがとうございます。

庶務課長 ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ないようですので、令和 7 年度における教育委員会事務局の主要課題につきましては以上とさせていただきます。

教育長 それでは、以上で本日予定しておりました日程は全て終了いたしました。

庶務課長、連絡事項がございましたらどうぞ。

庶務課長 次回の教育委員会定例会でございますが、5 月 14 日水曜日、午後 2 時からを予定させていただきます。どうぞよろしくをお願いします。以上でございます。

教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。